

研究主題 How to Introduce Listening into Classroom
in order to Make Students Autonomous Learners
～リスニング指導を通して生徒の自主性を伸ばすには?～

要約：生徒が自主的に英語学習に取り組むようになるためにはリスニングに重点をおいた指導を展開していくことが有効であると考え、その効果的な指導方法を実験を通して検証する。普通高校の1年生2クラスを用い、リスニングについてトップダウン方式とボトムアップ方式の2つに分けて指導する。その結果、語彙数の限られた高校生に対してはボトムアップ方式のリスニング指導がより効果的であるということが実証された。

キーワード：listening strategy, top-down approach, bottom-up approach, noticing

I はじめに

現在、教室内ではリーディングやライティングに多くの時間が取られ、リスニングにかける時間は大変限られている。しかし、リスニングにはもっと多くの目が向けられるべきであると考えている。英語教員にとっての最終目標の1つは生徒が自主的に英語に触れるようにしていくことであるが、そのためには生徒本人に英語を理解できた喜びを与えることが有効であり、リスニングはその喜びをたくさん生徒に与えられる領域であると考えられる。聞き取れた時の喜びは読み取れた時の喜びよりも大きいと表現する生徒は多い。

ここでリスニングに注目するさらに別の理由がある。それは勉学に不可欠な「気づき」に関係している。英語の4技能の中で「気づき」が最も効果的に作用するのはリスニングであり、「気づき」に重点を置いたリスニング指導が出来れば、生徒の自主性も高まると考えた。

以上の理由からこの研究ではどのようなリスニング指導がよいかを実験を通して検証し、生徒の自主性を育てる手がかりを探ってみた。

II 仮説を立てる

先行研究(Field: 2003, Richards: 2005)によると、リスニングを処理する場合に、聞き手はトップダウン的アプローチとボトムアップ的アプローチの2つを適宜組み合わせて話し手の言いたいことを理解しようとしている。トップ

ダウンアプローチは個々の音に頼るのではなく、聞き手が持っている様々な知識を使うことを強調する。例えば、**ma**の次の音が聞き取れなくても **The cat sat on the ma** から **t**の音を推測していくものである。対してボトムアップアプローチは個々の音を聞き取り、それを組み合わせていくことによって、単語やもっと大きな固まりを理解していく方法である。この2つのやり方をどのように組み合わせているかは個人によって、又題材によって変化している。

リスニングの処理には「気づき」という概念が不可欠であり、リスニングにおける気づきが学習者の自主性を伸ばすと考える学者は多い(Goh: 1997 Schmidt: 1990)。特に指導者は学習者の意識的側面に焦点をあてるべきだという意見は興味深い(Ridgway: 2000)。言語学習における重要な気づきには言語的特徴に関する気づきと到達目標までの差に関する気づきの2点があるが、Wilson (2008)によると **good listeners** はそういった気づきに自らが注目しており、自分が使えるストラテジーを取捨選択しながら聞き取りをしている。つまり、彼らは自分なりのリスニング方法を確立しており、そこには自主性が不可欠であるということが分かる。

上記のような事実や自分の経験を踏まえて次の3つの仮説をたてるに至る。

1. 日本の高校生に対するリスニング指導はトップダウン方式よりもボトムアップ方式の方が効果的である。

2. ボトムアップ方式によって生徒の気づきを促進させることが出来る。
 3. 気づきを増やすことによって、自主的学習者を育てることが出来る。
- これら 3 つの仮説を実証するために行った実験及びその結果を次に述べる。

III 実験方法

1 年生の 2 クラスを対象に実験を行う。どちらも男女混合の 40 人クラスである。クラス A にはボトムアップ方式でリスニング指導を行い、クラス B にはトップダウン方式でリスニング指導を行う。以下が具体的な実験項目である。

1. First Class

まず生徒のリスニング力を把握するために年度の最初の時間にリスニングテストを実施する。又、それまでに受けたリスニング指導に関するアンケートをする。リスニングテストは日本の生徒になじみがあるため英検の準 2 級のものを使用する。

2. Listening check sheet

リスニングする際に注意すべき点をリストにして配付し、リスニング後にその注意点が聞き取れたかを各自で判断させる。

3. Key words or small words

リスニングしながら空所を埋める問題でクラス A には弱音を聞き取らせる問題を与え、クラス B にはキーワードを聞き取らせる問題を与える。又、クラス A には 1 つ 1 つの音に集中させるために発音記号の説明をする。クラス B では細かい音は気にせず聞き取れた単語から自分の全知識を使って内容を推測するように指導していき、発音記号は教えなかった。

4. Special listening

随時教科書を離れて、様々なジャンルのリスニングをさせるがクラス A とクラス B では全く異なる教材を用いる。クラス A では音の連結や脱落を聞き取る練習になる問題形式の教材を与え、クラス B にはニュースやインタビューを聞かせて、内容把握に重点を置く練習をさせる。

5. Listening diary

生徒全員に一冊ずつノートを与え、リスニングに関することを何でも自由に書かせる。毎週集めて、コメントをつけて返す。

以上のように様々な取り組みを 3 ヶ月にわた

り行った。その結果クラス A とクラス B ではいくつかの違いが観察された。

IV 実験結果

1. リスニングテスト

実験開始 3 ヶ月後の 7 月に 4 月の最初に行ったのと同じリスニングテストを実施して点数の違いを比較する。

(表 1)

Listening test
(Class average)

	Class A	Class B
April	16.85 /30	17.45 /30
July	18.28 /30	18.0 /30

クラス A とクラス B のリスニングテスト結果(表 1)によると 2 クラスとも平均点は伸びているが、t 検定の結果、トップダウン方式の指導を受けたクラス B の点数の伸びは誤差の範囲であった。それに対して、ボトムアップ方式の指導を受けたクラス A は明らかに指導の効果が見られた。

2. 生徒の反応

(1) クラス A (ボトムアップ方式)

4 月当初はクラス全体がやや落ち着かない雰囲気であったが、発音記号等をきっちりと教えられるので、自分で問題点を解決しながらリスニングに取り組むことが出来るため楽しみながら英語を聞くようになってきた。そのため、授業中も落ち着いて音声に集中する様子が見られた。

2 ヶ月ほど経った頃に 1 つの大きな変化を感じるがあった。リスニングのポイントをリストにしてあるチェックシートは音声を聞く前に見ると、ある程度内容が分かってしまうので、クラスのほとんど全員が音声を聞いた後にチェックシートを配ってもらいたいと希望したのである。そのため、クラス A では各レッスンにおいて音声を聞く前には何もヒントを与えずにリスニング練習をすることとなった。

(2) クラス B (トップダウン方式)

4 月当初から真面目な雰囲気があり、提出物等もきちんと出すクラスであった。しかし、

リスニングについては大事な単語をつかみ取りなさいといわれても、何をキーワードとして聞き取ればよいのか自分で判断するのが難しく、ただ聞いているだけの受け身的な態度になりがちであった。

クラス A と同時期にリスニングのヒントとなるチェックシートをどのように活用したいか尋ねたところ、ほとんどの生徒が音声を聞く前に見たいと希望したので、それまでと変わらない方法でリスニングの練習をすることとなった。

以上のように、3ヶ月の間に生徒の反応には違いが見られるようになった。

3. アンケート結果

実験開始 3ヶ月後に生徒の様子を知るためにアンケートを行った。質問は3項目で、その結果は以下の通りである。

Question 1

Is the class carried out in English helpful to improve the listening ability?

	class A /40	class B /40
I definitely think so.	7	6
I think so.	26	24
I do not know if it is helpful or not.	7	6
I do not think it is very helpful.	0	3
I think it is never helpful.	0	1

Question 2

Is Listening Check Sheet helpful to improve the listening ability?

	class A /40	class B /40
I definitely think so.	4	2
I think so.	27	16
I do not know if it is helpful or not.	6	12
I do not think it is very helpful.	3	4
I think it is never helpful.	0	1

Question 3

Is Listening Diary helpful to improve the listening ability?

	class A /40	class B /40
I definitely think so.	2	1
I think so.	12	11
I do not know if it is helpful or not.	19	14
I do not think it is very helpful.	5	11
I think it is never helpful.	1	3

英語で行う授業に対する意見は 2 つのクラスで大きな差は認められなかった。リスニングチェックシートに関する質問ではクラス A でその有効性を認める生徒が多かった。リスニングダイアリーに関する質問ではクラス B でその効果に疑問を持つ生徒が多かった。

以上のアンケート結果からクラス A とクラス B では明らかに生徒達のリスニング学習に対する意識に変化がでていると言える。

4. リスニングダイアリー

一人一人に毎週書かせたリスニングダイアリーにはいろいろなコメントがあったが、その中に出てくる「出来た」、「出来ない」のコメントに注目して、その数を集計する。

(表 2) The number of comments

	Class A	Class B
could comment	165	132
couldn't comment	87	55

表 2 から明らかなようにクラス A の方がどちらのコメントもクラス B よりも数が上回っている。これはクラス A の方が積極的にリスニングに取り組んでいることになる。

次に授業以外で自ら進んでリスニングをしたというコメントに注目して集計する。

(表 3) The number of comments about extra English lessons

	class A	class B
listen to English announcements on the bus or the train	2	6
listen to foreigners in the street	4	6
listen to English in news	13	3
listen to some other English CDs	3	1
see movies which have English subtitles	20	6
listen to some TV or radio English study programs	16	7

表 3 から分かることはクラス A の生徒の方が積極的にリスニングに関わろうとしている態度が見受けられるということである。

5. リスニングチェックシート

リスニングチェックシートは各レッスンのパート毎に聞き取りのポイントを表にしたものである。1 つのパートにつき 7～8 項目のリスニングポイントを列挙し、各項目に対して「聞き取れた」か「聞き取れなかった」かのどちらかにチェックを入れさせる形式である。例えば、弱音の in や on という前置詞をきちんと聞き取れることが出来たかどうかというような項目や He's been working for two hours. の He's を his と間違えなかったかというものである。それぞれの項目に対して「聞き取れた」と答えたものの割合を計算した。

4 月に行ったレッスン 1 では各項目に「聞き取れた」と答えた割合はクラス A が 55% だったのに対しクラス B は 64% という結果であった。3 ヶ月後に行ったレッスン 4 では「聞き取れた」と答えた割合はクラス A が 64%、クラス B が 66% であった。どちらのレッスンにおいてもクラス B の方が「聞き取れた」と答えた割合はクラス A よりも高かったが、ボトムアップ方式の指導を受けたクラス A の伸び率が著しい。

V まとめ

2 つのタイプに分けてリスニングを指導してきたが、トップダウン方式の指導は語彙数の少ない高校生に対しては効果があまり期待出来ないため、英語の音声の特徴から指導していくボ

トムアップ方式の指導の方が効果的であるということが、リスニングテストの結果や生徒からの反応より結論づけることが出来る。その大きな要因としては、リスニングはボトムアップ方式の方が気づきを起こしやすいという点が挙げられる。リスニングチェックシート及びリスニングダイアリーの「出来た」「出来なかった」のコメント数、そしてアンケート結果がそれを証明している。

最後に、リスニングによる気づきが勉学に対する自主性を促進するということがリスニングダイアリーに書かれた授業以外で取り組んだリスニング数より結論づけることが出来る。

今回の実験は 3 ヶ月という短い期間であったが、もっと長期的に生徒の変化を調べることによってさらに効果的なリスニングの指導を模索していきたいと考えている。

参考文献:

- Field, J. (2003) "Promoting perception: lexical segmentation in L2 listening" *ELT Journal* 57:325-334.
- Goh, C. (1997) "Metacognitiveness awareness and second language listeners" *ELT Journal* 51:361-369
- Richards, J.C. (2005) *Second Language Listening: Theory and Practice*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Ridgway, T. (2000) "Listening strategies — I beg your pardon?" *ELT Journal* 54:179-185
- Schmidt, R. (1990) "The Role of Consciousness in Second Language Learning" *Applied Linguistics* Vol.11, No.2
- Wilson, J.J. (2008) *How to teach listening*. Edinburgh Gate: Pearson Education.